

# いきいきのびのびと暮らせるように

## —富士市子どもの権利条例—



富士市子どもの権利条例制定に向けた高校生ワークショップ合同発表会

会が7月15日、富士市立高校視聴覚室で行われた。市内6つの高校が参加し、本校からは杉浦快さん(27HR)、後藤幸志さん(27HR)が参加した。「富士市の子どものため」の権利条例にするため、積極的な意見交換が行われた。ワークショップに参加したのは、富士・富士東・吉原・富士市立・吉原工業・富士見の六校。五月から各校で話し合いを重ね開催されたワークショップは、小長井義正市長の挨拶で幕を上げた。小長井市長は「権利の主体となる皆さんの声を反映させ、条例に命を吹き込み、活気ある有意義な時間にした」と語った。

各校による発表では、「前文の形式」「前文に入れ込みたいフレーズ」を中心に意見が出された。各校の提案に共通したのは「自分らしさを大切に」というもので、個々



▲いきいきと話す代表生徒

を尊重し合うことを大切にしたいという想いが感じられた。全校発表を終え、小長井市長は「条例には、富士市らしさを加えて、どれだけ魂を注入するかが大事である」と語った。その後行われた各校生徒による意見交換会では、発表会が出た意見に対し感想やアドバイスを積極的に出し合う姿が見られた。富士高からの意見「かけがえのない」については、多く意見が交わされ「富士市らしさを大切に、独自性を持たすためには使わない方

が良い」という意見と、「本当に大切なフレーズだから多くの条例に採用されていると思うので、富士市の条例にも入れたほうが良い」という意見に分かれた。互いに率直に意見し合い、練り上げられていった。

また、吉原工業高校は、独自に前文を考え、各校に配布した。誰にでも伝わるように書き方を工夫しており、全員が説明に熱心に耳を傾けていた。富士市の子どものための条例とは何か、真剣に考えた時間となった。

### コメント

今回ワークショップに参加した、杉浦快さんと後藤幸志さんにコメントを頂いた。

杉浦快さんコメント



27HR 杉浦快さん

Q1 最初は緊張したものの、自分たちと同じ気持ちで、一緒に活動に取り組んでいる他校の代表生徒たちと意見を交わす

後藤幸志さんコメント



27HR 後藤幸志さん

Q1 他校の生徒の皆さんの意見がとてもしつかりしており、素晴らしいと思いました。また、一緒に話し合いに参加した杉浦快さん(27HR)が、自分たちの意見を正確に発表してくださり、心強

Q1 今回の高校生ワークショップに参加しての感想  
Q2 どのような富士市子どもの権利条例にしてほしいと思っただか

Q1 今回、楽しい時間を過ごすことができました。自分たちが携わっている企画の大きさを改めて感じました。

Q2 他校のまちは、一線を画すような、新しい富士市らしい条例を作ってほしいと思います。また、どんな人でも読みやすい、親しみをもてるものにしてほしいです。

Q2 表面上ではなく、制定前と後で子どもたちの生活が良い方向に変化するような条例にしてほしいです。例えばは学校の中で言うと、先生たちが伝統を重んじるあまり生徒の意見が反映されにくいところもあるようです。生徒の意見を尊重し、学校の状況が少しでも変わるような条例が制定されるべきだと思います。

### まとめ

富士市子どもの権利条例の制定を目指して開催されたワークショップ。富士市の子どもの意見をとり入れるため、市内の高校に通う高校生を対象に行われた。富士市の子どもが「いきいき」「のびのび」と暮らしていくことを目的とした条例は、もちろん主体は富士市に住む子どもである。しかし、条例を制定した上で、社会問題となつてくる虐待などから子どもを守るためには、大人の協力も必要不可欠である。静岡県内初の試みとなる子どもたちの権利条例は、令和三年度中の制定を目指している。富士市の今後に期待したい。